

バス八日市場分会

災害から組合員と
お客様の命を守る！！



防災の集い

4月5日、バス八日市場分会は「第2回 防災の集い」を開催しました。前段に現地踏査を実施し、その後、職場に戻り集会を開催しました。

伊東分会長は主催者あいさつで「現地踏査の体験や仲間同士の議論が、いざという時に命を守る力となる」と防災の取り組みの意義について訴えました。

来賓あいさつでは、中央本部で防災・減災委員長の森政策担当部長からは「八日市場分会の取り組みを全国に発信し、バス防災・減災プロジェクトをつくりあげる」、千葉地本の下村委員長からは「災害時の避難誘導標識の設置を求めていくべきだ」、JRバス関東本部の遠山議長からは「路線の危険を把握する取り組みをもっとやらなければならない。バスネットワークで防災の取り組みを広げよう」と、災害から組合員とお客さまの命を守るための問題提起がありました。



↑八日市場分会が作成したハザードマップ。一人ひとりの問題意識を共有！

集会で組合員から出された意見

- ・津波避難タワーに登って視点が変わった！
- ・乗務で気が付かないことが踏査を通じて見えた！
- ・乗客に対してどこまで対応するべきなのか？
- ・スクールバスや循環バスの乗客の特徴を踏まえて、シミュレーションすることが大事だ！
- ・バスで避難か、降車させるか？判断が難しい！
- ・ハザードマップを作成し、みんなにシールを貼ってもらった。一人ひとり問題意識が違うので、意見交換をするとお互いが勉強になって意識が高まる！
- ・東日本大震災を振り返って検証する取り組みも大事！

防災・減災対策を職場からつくりだそう！